

研究・調査報告書

報告書番号	担当
172	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳) Perceived pubertal timing, pubertal status and the prevalence of alcohol drinking and cigarette smoking in early and late adolescence: a population based study of 8950 Norwegian boys and girls. 早期および晩期青年期における自覚的成熟度、青春期の状態と飲酒、喫煙状況	
執筆者 Bratberg GH, Nilsen TI, Holmen TL, Vatten LJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Acta Paediatr. 2007 Feb;96(2):292-5.	
キーワード 青春期、飲酒、喫煙、ノルウェイ	
要旨 目的： 青年期の少女において自覚的成熟度が飲酒や喫煙状況と関連があるかどうかを明らかにすること。 方法： ノルウェイの Nord-Trøndelag 地方で 1995-1997 年に実施された The Young-Hunt study は 13 歳から 19 歳の 8950 人の生徒の情報を含んでいる。飲酒、喫煙に関するオッズ比と 95%信頼区間をロジスティック回帰解析によって検討した。 結果： 中学でも高校でも自分を早熟だと認識している少女は成熟度合が標準だと認識している少女に比べ危険な飲酒をしていると報告していた。同様な傾向が喫煙にも認められた。しかし、一方中学の少年で自分を晩熟だと認識している者においても成熟度合が標準だと認識している者よりも喫煙する傾向が高かった。 結論： 両性とも自分を早熟だと認識することと飲酒や喫煙などの危険行為とが関連していた。高い青年期の段階に早く到達したという認識は高い飲酒率、喫煙率と関連していた。	